

Issues Regarding Australian State Government Indigenous Education Programmes : With a Focus on AEA's (Aboriginal Education Assistants) in NSW

Takayuki Shimomura

Toba High-school

Abstract

This paper attempts to analyze issues of Australian Indigenous Education with a focus on promoted state education, through researching AEA's who have various, precious roles within indigenous education. The role of AEA's is unique. They are the go-between people for the indigenous students, the local indigenous communities and the schools. Their main duties involve supporting indigenous students in the school system and integrating the local indigenous community and parents into the school community and environment.

The analysis was performed by conducting interview research work on three separate occasions, collected in 2000, 2001 and 2005. These interviews were conducted with AEA's, students, parents and state government officers of New South Wales Department of Education. The research outcome demonstrates that AEA's have various important roles in the educational setting ; especially important if the AEA is the only indigenous staff member in the school. On the other hand, they face a lot of difficulties, e.g. conflicts between the students and the indigenous communities and the schools, overwork, isolation and so on.

The research also shows that even though the number of indigenous students has been increasing in recent years, the number of AEA's has not been increasing. This suggests the state government does not pay attention to indigenous education as much as before. Furthermore, the recent change in government education (both in state and federal government) makes AEA's busier and it influences their role from community based, which relates to indigenous communities and parents, to classroom based, which relates to improved basic literacy and numeracy skills. This change influences not only the roles of AEA's but also the future of the whole indigenous education.

オーストラリアの州政府が展開する 先住民教育の課題

——ニューサウスウェールズ州におけるアボリジナル教育
アシスタント（AEA）を事例として——

下 村 隆 之
三重県立鳥羽高等学校

は じ め に

1967年の国民投票によってオーストラリア先住民¹⁾は国民として認められ、その後政府は非先住民との格差是正に向けて対応していくこととなった。しかし、現在においても先住民が抱える問題は多岐にわたり、犯罪、雇用、医療・衛生などオーストラリア社会が解決すべき課題は多い。教育の領域においても格差是正に向けて様々な取り組みはなされているが、いまだその隔たりは大きい。

オーストラリアでは、州政府が教育の権限を強く持っている。各州政府は連邦政府との連携のもと、先住民との格差を是正し和解をすすめるために様々な政策を展開している(Council for Aboriginal Reconciliation 2001)。その中から本稿では、州政府が先住民生徒における教育の向上を促すために雇用しているアボリジナル教育アシスタント（以下 AEA とする）を事例として焦点をあてている。AEA は先住民生徒と先住民コミュニティそして、学校の三者の間に立つ非常にユニークな役割を担ったアシスタントである。そして、このアシスタントが先住民と非先住民の相互理解を促すために如何なる役割を担い、このアシスタントが日々の教育活動において現在抱えている問題点を検証し、現在の先住民教育の課題を分析する試みである。

本稿における州政府の取り組みとして、ニューサウスウェールズ州（以下 NSW とする）をケーススタディとしている。その理由は、オーストラリアにおける全先住民人口の最も多くが NSW に居住²⁾している中で、NSW は連邦政府よりも7年も早く1982年より「NSW

1) オーストラリアの先住民は一般的にアボリジニ（アボリジナル）とトレス海峡諸島民に分けられる。しかし、アボリジニ（アボリジナル）という呼称は入植者が名付けた名称であり、近年この呼称を望んでいないオーストラリアの先住民も存在し、その言葉の使用を避ける傾向がある（Miller 1999）。本稿もこのような背景に配慮し、引用および聞き取り調査の発言内容、名称等を除き両者を総称してオーストラリア先住民あるいは先住民と表記する。

2) NSW の先住民人口は、2001年の国勢調査では119,865名と最も多い（ABS 2001）。

アボリジナル教育政策」を制定し、先駆的に先住民教育政策に取り組んできた経緯があることによる (NSW Department of School Education 1996)。

AEA に関して、2000 年、2001 年そして 2005 年に現地調査を継続的におこなった。調査では、NSW 教育省、NSW 州立プライマリースクールおよびハイスクールの訪問と保護者からの聞き取り調査を実施した。オーストラリア先住民は、オーストラリア全人口の僅か 2 %程度に過ぎないため、無作為抽出的に学校等を調査するのではなく、教育関係者などオーストラリア先住民のネットワークを活用して調査は展開された³⁾。

1. 連邦政府の教育政策と州政府の教育政策

現在オーストラリアでは、オーストラリア先住民の教育改善をすすめるために様々なアプローチがなされている。連邦政府および NSW における教育政策の根拠となっている政策は、それぞれ「国家アボリジナルおよびトレス海峡諸島民教育政策」(AEP) と「NSW アボリジナル教育政策」であり、これらをもとにして個々の先住民教育政策やプログラムが展開されている (DEST 2005b, NSW Department of School Education 1996)。

オーストラリアでは教育の権限は基本的に州政府が担っているため、連邦政府と州政府では教育改善に対するアプローチの方法は非常に異なっている。基本的に連邦政府は教育に関する資金援助をおこない、日常の学校を管理運営する州政府はカリキュラムや人的資源からのアプローチをおこなっている。

まず、教育の権限は州政府が強いことから連邦政府は、先住民のための奨学金制度であるアプスタディ (ABSTUDY)⁴⁾と教育・科学・訓練省 (DEST) の実施する Indigenous Education Programmes (以下 IEP とする)⁵⁾の 2 つのプログラムが中心的な位置づけとなる。IEP は、

- 3) 調査地は、NSW のシドニー、トゥイドヘッズ、サウス・トゥイドヘッズ、リスモア、コフスハーバーである。シドニーでは州教育省での聞き取り調査のみである。トゥイドヘッズからコフスハーバー周辺の北部 NSW 海岸線にかけては Birbai, Ngamba, Ngaku, Gumbainggeri, Ji:gara, Bundjalung, Aragwal, Minjungbal の部族のエリアであり、これらの部族はイニシエーションや結婚等の儀式において相互の交流がある地域である (Nayutah and Finlay 1988: 6)。これらの地域にはアボリジナル博物館等の施設も建てられており、先住民教育も盛んな地域である。プライマリースクール 2 校とハイスクール 2 校を継続的に調査した。
- 4) アプスタディ (ABSTUDY) は、1969 年から始まった奨学金制度で、一般オーストラリア人が受けることができるオースタディ (AUSTUDY) とは別に組まれた財源である。アプスタディに関しては、Centrelink, *ABSTUDY-The Guide*. を参照。あるいは、<http://www.centrelink.gov.au> にアクセスできる (Centrelink 2005)。
- 5) IEP は、2005 年に従来の Indigenous Education Direct Assistance programme (IEDA) を改訂し展開されている。各プログラムは、放課後に宿題など生徒の学習支援をするホームワークセンターやチューターを派遣する Indigenous Tutorial Assistance Scheme (ITAS)、保護者の活動を支援する Parent School Partnership Initiative (PSPI) 等がある (DEST 2005a)。しかし、大きな変更点は学力向上のプログラムに集中していることである。PSPI の前身の Aboriginal Student Support and Parent Awareness (ASSPA) は委員会に活動内容と予算執行の権限があったが、PSPI では権限が縮小されている。また、今回生徒の大学や職場見学等を支援する Vocational and Educational Guidance for Aboriginal Scheme (VEGAS) は削除され、代わりに授業時間内に学習補助チューターを生徒に付け学力

先住民生徒の教育改善に取り組むプロジェクトに予算配分することや、授業や放課後など、先住民生徒の学習補助のためにチューターを雇用するための費用など種々の先住民教育に対する資金援助が中心である（DEST 2005a）。

一方、日常の学校教育の権限を広範に持つ州政府は、カリキュラム面からのアプローチと先住民のアシスタントを学校に配置し、先住民生徒や保護者にとって学校にアクセスし易い学校環境づくりをおこなう人的アプローチが中心的な取り組みである。NSW では、子どもたちの学習に直結するカリキュラム面のアプローチとして、「人間社会と環境」、「英語」、「算数および数学」、「体育」、「創造と実践芸術」、「科学と技術」の教科領域において、教える内容にアボリジナルとの相関関係を取り入れるようになされている。また、「人間社会と環境」の教科領域には独立した科目として「アボリジナル・スタディーズ」を設けている（Board of Studies NSW 1999：7）。そして、先住民の子どもたちがよりよい環境で学校生活をおくることができるように配置された人的アプローチとして AEA が学校現場において教育改善のため活躍している。また、AEA の役割は先住民生徒と先住民コミュニティ、そして学校の間に立つことであり、これは NSW のアボリジナル教育政策の三本柱にあたるアボリジナル生徒、アボリジナル・コミュニティ、すべてのスタッフ・生徒・学校に密接に関係しておりその職務の重要性が伺える。当然ながら、地域の教育委員会職員やアボリジナル教育およびアボリジナル・コミュニティ連絡職員などの教育行政職員による活動も間接的に先住民教育に関係するが、学校現場において常時直接関係する活動は上記の2つが中心となる。

2. 人的側面からのアプローチ「AEA」

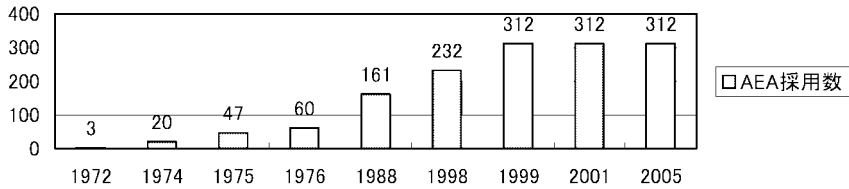
2-1 AEA とは

人的側面からのアプローチとして、AEA と呼ばれる教育相談アシスタントを NSW では雇用している。AEA は、かつて Aboriginal Teachers Aides(以下 ATA とする)⁶⁾と呼ばれ 1972 年より始まった。当初は、3 名の ATA が 2 つの小学校で試験的に活動した。その後採用数は飛躍的に増加したが、1991 年に 312 名に達してからは 2005 年まで、増員はなされていない（グラフ 1 参照）。

ここで特徴的なことは、教育の権限は各州にあるというものの、教育も国家の政治動向に

↘ 向上を図る授業時間内指導の充実が図られた。

6) ATA という名称で広く定着しているケースもあり、保護者の中には AEA を ATA と呼んでいることも頻繁にある。正式には先住民生徒の学習補助をする人物（チューター等）を ATA と呼ぶが、先住民教育に関する補助やアシスタントをする人物を総称して ATA と呼ぶことも広く一般的にある。先住民の教育アシスタントをする職名は各州によって異なっており、例えば QLD では Indigenous Teacher Aides (ITA) と呼ばれ、NT では Aboriginal Assistant Teachers (AAT) と呼ばれている。各州ともそれぞれ独自の雇用形態をとっている（MCEETYA 2000：76）。



グラフ1 年別 AEA 職員数

(出典：NSW Department of Education and Training 1995, 2001 a, および聞き取り調査よりグラフ作成)

大きく影響を受けていることが確認できることである。1972年にAEAの制度が実験的にスタートしているが、この年は連邦政府にアボリジナル問題省が設置された年である。そして多文化主義政策の流れに伴って、AEAの雇用も段階的に増えたことである。特に雇用数が大きく増加したのは、先住民政策に関して前向きに取り組んだホークとキーティングの労働党が長期政権を担っている1980年代後半から1990年代頃である。そして、現在の先住民政策に消極的なハワード政権の長期継続化においては、先住民児童・生徒の数は大きく増加しているにも関わらず、AEAの雇用は全く増加していないことである⁷⁾。また、詳細は後述するが国の学力向上重視の政策から、AEAの雇用よりも学力向上のためのチューターの雇用に財源を費やしていることの影響もあると考えられる。

現在は312名のAEAがNSWで勤務している。各学校においてAEAが雇用される条件について、詳細に説明すれば以下ようになる。

- ・最低30名以上の先住民生徒が継続して2年間以上在籍していること。
- ・AEAは求人広告を通じて公募され、先住民であれば応募でき、教員と異なり特別な資格は必要なく、またその地域コミュニティ出身である必要もない。しかし、継続して30名以上の先住民生徒が在籍しなくなれば、AEAは100km圏内の他の学校に異動させられる。
- ・AEAはすべて常勤の正規任用で採用される。
- ・採用に関しては面接がおこなわれ、面接には通常4名の面接官がおり、それは校長、Aboriginal Education Consultative Group (AECG)⁸⁾の代表、アボリジナル保護者の代表、教育・訓練省学生サービス支部の代表によって構成される。

(NSW Department of Education and Training 1995: 47-48, 2001 a. および教育行政職員 A

7) NSW 公立学校の先住民生徒数および全生徒数に占める割合は、以下のように増加している。1988年(14,932名・2.0%)、1998年(26,699名・3.5%)、1999年(28,154名・3.7%)、2001年(30,825名・4.1%)、2004年(35,290名・4.7%) (NSW Department of Education and Training 2001 b: 31, 2004: 5)。

8) AECGは、アボリジナル・コミュニティが基礎となって組織される相談グループで、地域レベルから州レベルまでである。Indigenous Education Consultative Group (IECG)としても知られている。これらは州によって名称が異なる。

(先住民), 2001年7月18日の説明)

また, AEA は校長に対して責任を負い, 次の役割をその職務とする.

1 学生サポート

- ・アボリジナル生徒に対して, 彼らの学校への参加や学習の進展に関して助言をおこなう. 学生の就学をサポートし就学率を高めるよう奨励する.
- ・学校の決定過程に生徒の参加を奨励する.
- ・生徒の教育的および個人的なニーズに対して必要な助言をおこなう.

2 コミュニティサポート

- ・アボリジナル保護者を学校プログラムや教育決定過程に参加させることを奨励する.
- ・アボリジナル保護者とアボリジナル・コミュニティとの関係を効果的に維持する.
- ・子どもたちの学校での進歩や必要なことに関して家庭を訪問する.
- ・学校の組織や目的に関してアボリジナル・コミュニティに情報提供をする.

3 教師サポート

- ・学校プログラムに保護者やコミュニティが参加するように教師をアシストする.
- ・遠足や社会見学などを含むすべての学校活動において, アボリジナル生徒が参加できるように教師をアシストする.
- ・アボリジナル生徒の学校活動における学習進展のために教師をアシストする.
- ・特にアボリジナル教育を強調するとともに, すべての生徒のためのプログラム開発において教師をアシストする.
- ・アボリジナル教育に関してすべての生徒のためのプログラムをサポートし, リソースの開発と認識を高められるように教師をアシストする.
- ・すべての生徒のためのカリキュラムを開発することおよび遂行すること, 特にアボリジナル生徒の必要性に適応したカリキュラムの開発と遂行ができるよう教師をアシストする.

4 その他の職務

- ・校長の要請に応じた義務を遂行する.

(NSW Department of Education and Training 1995: 47-48)

このような雇用条件を満たし AEA として雇用され, 校長に対して上記のような責任を負い職務を遂行するが, AEA の現在の職務状況について, 同 AEA 担当者からの聞き取り調査によりさらに次のような特色を見いだすことができる.

- ・ AEA は現在では常に 1 つの学校で勤務しているが、1999 年まで AEA はすべてではないが地域によっては複数校を兼任しなければならなかった。しかし、兼務では AEA の職務機能を十分に発揮できず、また子どもたちにとって常に AEA が学校に勤務しサポートする方が望ましいという観点から、AEA の兼任制度は 1999 年に 80 名が増加されたことによって廃止された。
- ・ また AEA は現在、少年院 (Juvenile Justice Centres) においても 12 名が勤務しており、遠隔地から都市部の学校に来る子どものための宿泊施設 (Hostels) にも AEA は勤務している。しかし、学校での勤務の場合でもこのような特別施設の勤務の場合においても、AEA は子どもをサポートし相談に応じることはできても、カウンセリングをすることは資格を有していないためそれは不可能である。子どもにカウンセリングが必要な場合は、AEA はカウンセラーを推薦あるいは紹介する必要がある。
- ・ さらに、NSW 教育・訓練省の管轄および財源とは別の手段によって AEA が学校にいることに近い状況を作り出している所もある。これは学校や地域によっては、非常勤で AEA に似た職務内容で先住民職員をそれぞれの予算枠の範囲内において雇用していることである。

(教育行政職員 A (先住民), 2001 年 7 月 18 日)

2-2 AEA の学校現場における職務状況と問題点

通常 AEA は学校において教師をサポートし、先住民生徒や保護者の相談を受ける役割を担うため、相談室やアボリジナル・スタディーズ資料室⁹⁾などに在室しその職務を担っている。AEA の主な役割は、学校において先住民生徒をサポートすることと保護者や先住民コミュニティの人々を学校教育の中に取り込んでいくことにある。それ以外にも AEA の存在は、学校や地域にとって大きな効果をもたらしている。この点に関して、Heitmeyer は次のような指摘をしている。

AEA は学校のカリキュラムの中にアボリジナルに関する内容を取り入れる際に、教師にとって非常に有効なリソースを提供できる。AEA は、教師に対してどのような内容がコミュニティにとって有効で、どのような情報が教師や生徒にとって適切か手助けし、その情報に関してもっとも適切に対応できる組織や人物を提案することができる。

(Heitmeyer 2001 : 228)

9) AEA が配置されている学校は、先住民生徒数も多いことから先住民教育に力を入れている学校も多く、そのことからアボリジナル・スタディーズを開講している学校も多い。そのような学校では、教科学習のために必要な図書や視聴覚教材などが豊富に揃えられた資料室を設けていることが多い。

このように、単に生徒や教師のサポートをするだけではなく、先住民として地域に非常に根付いていることから、日々の教育活動の中で発生した様々な問題に対して、適切な人物や組織と連携があり、問題解決のために有効にそれを機能させることができることにある。AEA が学校現場で勤務していく上で、自らの職務に対してどのような意識を持つことが必要であるか、ハイスクールの AEA の A さんは、次のように述べている。

まず勇気づけることが大切です。また、私が思うに現在の学校制度はまだ多くの不平等があります。教師との関係もありますが……私の仕事は、フレンドシップを大事にして生徒が学校を続けられるように、教科のことや先生との関係など何か問題が生じたときには、そこに行って両者の間に入り解決できるように努め、みんなが幸せになれるようにサポートします。より重要なことは勇気づけることです。先立つ者が、そのロール・モデル（模範となる者）となるようにです。（AEA, A 2000 年 8 月 17 日）

立場の弱い先住民生徒に対して勇気づけることの大切さと、自らが先立つものとしてロール・モデル（模範となる者）となる意識の重要性を述べている。また、教師と生徒の中間に立ち、フェアな立場で両者に接することがこの職務の基本的な姿勢である。同様のことを別のハイスクールの AEA である B さんは、次のように述べている。

この AEA の部屋は資料室（Resource Room）でもありますので生徒は資料を探しに来るだけのこともありますし、また私は様々な相談も受けています。相談内容は家庭や学校でのトラブルや悩みなどがあります。また、生徒がクラスルームで教師とトラブルになったとき、私はクラスルームに行って教師と生徒の間に立って仲介をします。問題がさらにエスカレートしないように対応し、停学などの大きな問題にならないようにしています。（AEA, B 2001 年 7 月 25 日）

このように AEA の職務は日常の学校生活の中では、先住民生徒の良き相談者となり生徒と教師の間に立ちトラブルを解消し学校がスムーズに運営されることが第一の任務である。しかし、このように活動している AEA であるが、その AEA を教師が都合良く利用しているケースがある。この点に関して、Heitmeyer は「教師によっては AEA をアボリジナル生徒とのトラブルが生じた時のみ利用しようとしており、このことは AEA およびアボリジナル生徒双方にとって有益ではない」（Heitmeyer 2001: 228）と述べており、教師に先住民職員である AEA が都合良く利用されるケースの問題を指摘している。

AEA の職務は、学校、生徒、保護者（コミュニティ）の間に立ち、仲介的な職務内容から、その具体的な職務は多岐にわたる。それは、教科指導が中心でその専門性や教科を通じ

てその指導力が要求される教師とは大きく異なりがある。通常は学校において勤務しているが、学校において生徒の相談に応じるだけが職務ではなく多様な職務にも柔軟に対応していくことが必要である。

例えば、プライマリースクールの AEA の C さんは、AEA の職務について次のように述べている。

教師の仕事は、学校が始まってから終わるまでで、勤務時間がはっきりしています。しかし、私の仕事は学校がある時間もそうですが、なにか問題があると時には家庭に行って家族と話したり、学校が終わる頃に保護者が相談に訪れたりすることがあります。その他にも教師とは異なりコミュニティに関係していくつかの会議があるなど、より変則的になる時があります。子どもと親とコミュニティの三角形の中で仕事をし、親に対してはより明確で分かりやすい言葉で政策の意図を伝えていかなければいけないので、時には難しさを感じることもあります。(AEA, C 2001 年 7 月 10 日)

通常の学校における生徒に対するの対応と同様に、AEA の職務として重要なことは保護者や先住民コミュニティとの密接な関係である。上記プライマリースクールの AEA である C さんは、さらに保護者への対応について次のように述べている。

私の仕事の役割には保護者への支援があります。また、現在の政策を理解してもらうことも重要な仕事のひとつです。教育政策だけでなく種々の政策も含まれます。私の仕事のひとつとして、ニュース・レターを作って保護者になにが起こっているのか知らせています。今でも多くの保護者は法律や市民の権利などを全く知りません。学校はどのように運営され、そして例えば停学などの措置や罰則など彼らは全く知りません。私の仕事において、そのような保護者に学校のあり方などを知らせることが重要で、私の仕事は非常に幅広く何でもしなければなりません。(AEA, C 2001 年 7 月 10 日)

AEA が保護者や先住民コミュニティと密接な関係を築き上げなければならない背景としては、オーストラリア先住民は白人入植以来迫害され続け、社会的にも教育的にも排除されたか強制的な同化を強いられたこと、あるいは差別され続けた歴史があることによる。学校と先住民保護者やコミュニティとの間にある障壁の大きさと、その障壁を解消するための AEA の役割について、ハイスクールの AEA の B さんは、次のように述べている。

世代をさかのぼっていくほど、白人の社会制度に対する反発や抵抗が強く存在しています。学校をはじめとして教育はその典型です。彼らは、学校や教育は我々先住民のも

のでなく、白人の教育は我々先住民にはなじまないと思っています。そして、その価値観は世代を通じて受け継がれ繰り返されます。我々はその考えを変化させ、その固執した考えのサイクルを止める必要があります。親が教育に関心が無く子どもをサポートしなかったら、子どもは学校を楽しみ、そして自分の目標に向かってコースを選択していくことができるはずありません。子どもの教育が最も優先的なことにならなければ、なかなか学校や教育は変わりません。(AEA, B 2001年7月25日)

このような保護者や先住民コミュニティと学校の間で大きな障壁がある中で、AEA が先住民の教育改善に果たしている役割は非常に大きいと考えられる。それは保護者や先住民コミュニティに対してだけでなく、子どもたちに対しても同様である。調査において訪問した4校においても子どもたちはAEAのいる部屋に頻繁に出入りしており、AEAは常に子どもたちへの対応に従事している様子があった。その対応は、先住民生徒のみならず非先住民生徒にも平等におこなわれていた。さらに保護者や先住民コミュニティとの関係もあり、広範囲な職務に常に追われることになる。しかし一方で、学校内においてAEAは唯一の先住民職員であるケースも多く、AEAの職務上の負担は大きい。このことについて、ハイスクールのAEAのBさんは、次のように述べている。

現在この学校でアボリジナルのスタッフは私だけであることから私自身多くのプレッシャーを感じています。すべての教師は非アボリジナルで、この地域でアボリジナルの教師は聞いたことがありません。すでに退職しましたが、かつては老年のアボリジナル教師が1人小学校にいた程度です。(中略)

現在でも家庭訪問用の時間割表を持って家庭を訪問しています。特に生徒が停学などの処分を受けたときなどは連絡を密にして訪問しています。ここまですることは本来の私の仕事ではありませんが、私は家庭訪問をして家庭との連携を大切にしています。(AEA, B 2001年7月25日)

また、AEAの多忙性について4人の子どもの保護者は、次のような指摘をしている。

学校には1人のAEAと1人のアボリジナル教師がいます。他の学校すべてにこのようなスタッフがいるわけではありませんので、我々の学校は比較的幸運です。しかし、彼らは子どもたちが望むほど十分に手助けはしていません。それは、アボリジナルの子どもたちをサポートするとともに、非アボリジナルの子どもたちにも同様に平等にすべての子どもたちをサポートしているからです。ですから、アボリジナルの子どもだけに集中して対応しているわけではありませんので、彼らにとってよりアボリジナルの子

どもを手助けする十分な時間が確保できないでしょう。アシスタント（AEA）は常に忙しく、我々が望むような対応ができるほどの十分な時間が確保できていないと思います。（保護者、2001年6月30日）

これは学校に1名しかいないAEAに対して、その職務の重要性と多忙さに理解を示しながらも、一方で保護者としての立場から、子どもたちへの対応が十分に行き届いていないことへの不満も述べられている。AEAは保護者と学校との間に立つ立場からDESTがすすめているAboriginal Students Support and Parent Awareness Programme（以下ASSPAとする）委員会¹⁰⁾にも役員として関与しているケースが多い。特に、AEAは生徒の保護者の多くや地域全体を把握していることや、コンピュータ技術を持っていることから、会議の招集や、議事記録、会計処理など広範な庶務に関わっているといえる。ASSPAの仕事は完全なボランティアであり、その他の先住民コミュニティとの会議への参加などいくつか本来の職務との境界が不明瞭な仕事もあり、AEAの善意に頼っているケースも非常に多い。

このようなAEAの善意に頼った状況は、同時にAEAの過剰負担をもたらすことになる。このことは、教科領域に責任を持つ教師や決められた時間のみ対応する教育カウンセラーとその職務形態が異なることである。今後はAEAのそのような負担をいかに解消するかが重要な課題になるが、そのためには校長や学校職員の十分な理解と協力が不可欠になる。それが十分になればAEAは学校において孤軍奮闘することになり、子どもたちへの対応にも支障を来すことにもなりかねないことが懸念される。

またAEAが採用されている学校はNSW全体でみても非常に少ない。NSWでは2004年において2,244校の公立学校がある（NSW Department of Education and Training 2005: 11）。AEAは312名採用されており、1校1名であることから312校にしか雇用されていないことがわかる。これは全体としての比率は14%にすぎない。AEAの雇用は1972年の3名から考えると2005年までの約30年間で、その数は312名に増加するという飛躍的な増加ではあるが、いまだ現在においてAEAが雇用されていない学校の方が大多数であり、今後この学校間格差を解消することが州政府の課題であろう。

10) ASSPAはIEDAの1つで、先住民保護者を一定の範囲内で日常的教育活動における意識決定と教育活動への参加を促す活動である。校長や教師を含み地域コミュニティの保護者の中から役員が選ばれ委員会を組織し、文化活動等を企画・運営している（DEST 2003 a, b. DETYA 2000, 2001）。この目的は、歴史的にも社会から締め出され教育においても差別等を受け学校に否定的な意識が高い先住民の保護者を、学校活動に積極的に参加させることで不信感を解消し、子どもの学校への参加意識を高めることである。しかし、2004年末に廃止されIEPのPSPIがそれを継承したが、予算をASSPA委員会で協議し自由に活用できるのではなく、政府に計画を申請し承認されれば予算が下りるようになった（DEST 2005a）。

3. 近年の動向と変化

近年の先住民政策の動向は、ハワード政権による2004年4月15日のアボリジナルおよびトレス海峡諸島民委員会（以下 ATSIIC とする）廃止の公表¹¹⁾に例を見ることができるように、実質的な後退と見てよい状況がある。先住民教育においては、連邦政府が実施していた Indigenous Education Direct Assistance programme（以下 IEDA とする）の内容を変更したことからもその影響がわかる。例えば、かつては先住民生徒の数に応じて予算が配分され、その予算の活用は先住民保護者と学校代表者の組織である ASSPA が委員会を開き決めることができた（DETYA 2001）。これは歴史的に排除されてきた先住民を積極的に学校教育に受け入れ、先住民やコミュニティがその運営や実践に主体的に関わることを目的としている。しかし、内容が変更されたことに伴い、その目的は薄められると共に新しい政策では読み書き計算能力などの学力に焦点がおかれたといえる。このような連邦政府の影響は現在 AEA の役割にも大きな変化を与えている。

AEA の役割の変化について2005年の調査からは次のことが確認できた。州政府の AEA のサポートをおこなう行政職員の B さんは以下のことを述べている。

AEA の役割は、先住民の子どもたちや保護者のサポートになりますが、近年の傾向としてよりクラスワークに視点が注がれています。コミュニティとの関係に時間を費やすことよりも、クラスの中に入って先住民生徒と関わる時間を増やしていく傾向にあります。特に今年からはクラス中心（class room based）の方法に焦点を向けております。AEA はクラスに入っていく、すべてのカリキュラム領域においてアボリジナルに関する内容を取り入れるように関わっていくとともに、子どもたちの作業の手助けや教師が気が付かないことや、解決できない先住民生徒の問題を見つけ同じ先住民としての働きかけで解決できるように努めるように変わりつつあります。以前はどちらかというと保護者やコミュニティを訪問するなど、コミュニティ中心的（community based）な視点が強かったように思われますが、現在は違います。（教育行政職員，B 2005年8月9日）

AEA は基本的に教師ではないため、以前はクラスの学習活動に関わるよりも、生徒の相談や保護者との連携にその職務の重点が置かれていた。しかし、上記の指摘にあるように先住民教育の方向性が、地域やコミュニティを広く学校教育に取り込むことから距離をおき先

11) ATSIIC の廃止が公表され、業務は分割された。詳細は *New arrangements in Indigenous Affairs* (Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs 2004) 参照。

住民生徒の勉強や学習環境により重点がおかれていく傾向を物語っている。さらにその点を裏付けるように ASSPA との関連について次のような指摘がある。

ASSPA はもはや存在しておりませんし、アボリジナル生徒の学力が非アボリジナル生徒の学力に届いていないため、新しいプログラムでは学力向上に焦点が当てられ、チュートリアルなどに大幅に予算がシフトしています。アボリジナル生徒の学力が基準に達するように求められ、学校の責任も以前より重くなってきております。したがって、以前のように予算がまわされるのではなく、学校の責任において予算を獲得し、それを効果的に学力向上に活用することが求められています。(教育行政職員, B 2005 年 8 月 9 日)

このようなことから AEA は、子どもたちの学力を補う役割を強く担うようになったといえる。しかし、ASSPA が廃止になったとはいえ AEA の地域との関係がなくなるわけではなく、先住民生徒の問題行動等があれば以前と同じように地域との連携がその職務として重要である。その点を考慮するならば AEA の職務上の負担は増えているといえる。この点に関連して現場の AEA の A さんは次のような指摘をしている。

以前は先住民生徒数に応じて予算が配分されていたので、我々は ASSPA 委員会で協議し、地元の人々が作ったブーメランや民族道具、アート、地域の先住民の資料などを購入しそれを展示することや授業に活用するなど、地域の先住民を尊敬し誇れるようなものに使っておりました。あるいは地域との交流会に予算を使っておりました。しかし、現在は計画を申請して通れば予算が下りてくるようになりました。我々は5つの計画で A\$29,000 の申請をしましたが、通ったのが2つの計画で A\$13,000 のみです。文化交流に関する計画は採用されず、学力向上に関する計画のみが採用されました。そして、申請から審査、そして成果の報告まで非常に手続きも煩雑になり仕事の負担が増加しました。文化の尊重よりも学力重視なことと審査に通らなければ予算が下りないといった我々の自主性を尊重していない最近の様子は、先住民教育が 1950 年代に戻ったような印象を受けます。(AEA, A 2005 年 8 月 17 日)

この AEA の発言では、まず職務の多忙化・煩雑化が指摘されている。そして地域コミュニティや文化などを中心にした教育から、単に学力が重視される教育への転換に対しての不満やそのような文化を尊重しない教育のあり方に、かつての同化政策を思わせるものとして好ましくない印象を受けている。このようなことから、連邦政府の先住民教育政策の転換が AEA の職務や役割に大きな変化を与えていることが確認できる。

また、先住民教育予算との関連では、教育行政職員の C さんは次のような指摘をしている。

ATA と AEW¹²⁾は、両方とも増加しております。顕著な増加ではありませんが、徐々に増加しております。昨年のレビューでは AEA の増加が強く求められました。しかし、予算に限りがあるため常勤である AEA の増加はなされず、その代わりに非常勤である AEW の増加で対応している様子があります。(教育行政職員, C 2005 年 8 月 9 日)

常勤の AEA の増員ではなく非常勤の AEW や学力向上政策に伴って ATA を増員していることは、政府の先住民教育政策に対する消極的な態度の端的な表れを示していると受け取ることができる。AEA のように常に学校にいて先住民生徒をケアし教師、保護者との連携を保つのと異なり、限られた時間のみ応対する非常勤職員の勤務形態では、同じ先住民生徒規模の学校であってもその成果には大きな格差が生ずることは容易に予測できる。したがって、AEA の増員が今後の先住民教育の教育改善の大きな鍵になるであろうが、現在の様子からはそれは期待できないと考えられる。

4. 結びにかえて

先住民職員をアシスタントとして雇用する人的側面からのアプローチとしての AEA は、生徒のケアや、保護者および先住民コミュニティと学校の橋渡しの役割を担い非常に重要な職務である。特に、学校のカリキュラムの内容に関して先住民サイドからの観点による適切なアドバイスやリソースの提供ができることから非先住民の価値観が支配的であった学校文化に対して、先住民の視点を学校に取り込むことができる点において非常にその存在に意義があるといえる。また、時にはその学校において唯一の先住民職員であることもあり、マイノリティである先住民生徒にとって良き相談役であると共に見習うべきロール・モデルとしての役割も十分にある。そして、保護者や地域コミュニティに精通していることから、特に歴史的な背景に起因している先住民の学校教育に対する否定的な価値観や障壁、あるいは固執した考えのサイクルを止め、改善していくために貴重な役割を担っており、AEA によるこれまでの様々な活動が現在まで先住民生徒の教育を向上させてきた中で重要な役割を果た

12) Aboriginal Education Worker (AEW) は、AEA がいない学校に配置され、特に 30 名以上のアボリジナル生徒がいても AEA が確保できない学校などに AEW が配置される。AEW は常勤雇用ではなく、非常勤雇用になり、また ATA も非常勤雇用になる。20 週か学期ごとの雇用契約になっており、必要に応じてその都度更新されるが、その年の予算によって左右される不安定な状況がある。一方、AEA は常勤なので継続した雇用が確保されている。

してきたといえる。しかしながら、歴史的な背景にも起因している先住民側の学校教育に対する意識の乖離は未だ非常に大きいことが伺える。

AEA は先住民側と学校側の間を取り持ち、両者の良好な関係を築くためにその職務があるが、その立場の特異性から様々な課題を抱えている。先住民生徒にとっての良きロール・モデルである一方で、教師に都合よく利用されるケースや学校によっては唯一の先住民職員として職場内において様々なプレッシャーに曝されている現実もある。

先住民教育において広範かつ重要な役割を担っている AEA であるが、全体としてまだ十分な数の AEA が採用されているとはいえない状況がある。30 名以上の先住民生徒が継続して 2 年以上いる学校においても、AEA が採用されていないケースも多くあり、予算の面からも今後の改善が必要であるといえる。しかしながら、近年の傾向としては常勤である AEA を雇用するのではなく、非常勤職員の AEW の増員で補っている傾向がある。先住民生徒数が増加しているにもかかわらず、AEA が増員されず、非常勤の職員でまかなおうとすることは実質的な先住民教育の後退と捉えることも十分可能である。

また、連邦政府が近年進めている教育改革の影響が AEA の職務にも大きく影響を与え、職務の多忙化や煩雑化を生じている。加えて、AEA は学校と先住民コミュニティの橋渡しである重要な役割を担っているが、保護者やコミュニティとの連携は薄められつつある。一方で学力の向上のために教師をアシストする役割が増えているが、学力では計ることのできない文化的な経験や接触、先住民のアイデンティティを高めるような活動に対しては、予算の削減もあり実質的な後退をしているといえよう。

本稿では、学校と地域や保護者の間に立つ AEA という先住民職員に焦点を当てることから先住民教育の分析をし、その課題を抽出することを試みた。また、2005 年にもさらに調査を重ねることによって近年の先住民教育の動向にも焦点をあて分析をおこなった。読み書きといった英語能力の向上や計算能力といった基礎学力の向上のみに関して考えるならば今後の成果の向上は期待できるが、先住民の価値観を学校現場に取り込み生徒たちのアイデンティティを高めることや、彼らの文化を広く尊重しそれを学習に取り込み、先住民生徒にとってより快適な教育環境を整えるような試みは後退しつつある。現政府は先住民との和解をオーストラリアの進むべき方向として表向きは捉えてはいるものの、しかしながら AEA という一つの職業の分析からもそれには本質的に遠のいている状況が今回の調査・分析からも十分に判断することができる。

文献リスト

- Australian Bureau of Statistics, 2001, *Census of Population and Housing, New South Wales (STATE 1)*, 801352.2 sq. Kms, Canberra.
- Board of Studies NSW, 1999, *Aboriginal Studies Stage 6 Syllabus 1999*, Sydney.
- Centrelink, 2005, *ABSTUDY-The Guide*, Canberra.

- Council for Aboriginal Reconciliation, 2001, *Reconciliation and Its Key Issues*, Canberra.
- Department of Education, Science and Training (Commonwealth of Australia 2003), 2003a, *Indigenous Education Strategic Initiatives Programme (IESIP)*, Canberra.
- Department of Education, Science and Training (Commonwealth of Australia 2003), 2003b, *Indigenous Education Strategic Initiatives Programme (IESIP) Provider Administrative Guidelines 2001 to 2004 Part 1, Part 2*, Canberra.
- Department of Education, Science and Training (Commonwealth of Australia 2005), 2005a, *Indigenous Education Programmes : Provider Guidelines 2005–2008 Part A*, Canberra.
- Department of Education, Science and Training (Commonwealth of Australia 2005), 2005b, *National Aboriginal and Torres Strait Islander Education Policy (AEP)*, Canberra.
(<http://www.dest.gov.au/archive/schools/indigenous/aep.htm>)
- Department of Education, Training and Youth Affairs (Commonwealth of Australia 2000), 2000, *A Review of the Indigenous Education Direct Assistance (IEDA) Programme October 2000*, Canberra.
- Department of Education, Training and Youth Affairs (Commonwealth of Australia 2001), 2001, *ASSPA 2001 : A Guide for ASSPA Committees*, Canberra.
- Department of Immigration and Multicultural and Indigenous Affairs, 2004, *New arrangements in Indigenous Affairs*, Canberra.
- Heitmeyer, Deirdre, 2001, “The Issue is not Black and White : Aboriginality and Education” Jennifer Alllen ed., *Sociology of Education : Possibilities and Practices*, 2nd ed., Katoomba New South Wales : Social Science Press, 211–232.
- Miller, James Wilson, 1999, “A history of special treatment : the Impact of government policies” Rhonda Craven ed, *Teaching Aboriginal Studies*, St Leonards NSW : Allen & Unwin, 129–148.
- Ministerial Council on Education Employment, Training and Youth Affairs, 2000, *National Report on Schooling in Australia 1997*, Canberra.
- Nayutah, Jolanda and Gail Finlay, 1988, *Our Land Our Spirit –Aboriginal Sites of North Coast New South Wales*, North Coast Institute for Aboriginal Community Education, Lismore NSW.
- New South Wales Department of Education and Training, 1995, *Aboriginal Education Assistants Statement of Duties*, Sydney.
- New South Wales Department of Education and Training, 2001a, *Aboriginal Teachers Aids-Background*, Sydney.
- New South Wales Department of Education and Training, 2001b, *Statistical Bulletin : Schools and Students in New South Wales 2001*, Sydney.
- New South Wales Department of Education and Training, 2004, *Statistical Bulletin : Schools and Students in New South Wales 2004*, Sydney.
- New South Wales Department of Education and Training, 2005, *New South Wales Department of Education and Training Annual Report 2004*, Sydney.
- New South Wales Department of School Education, 1996, *Aboriginal Education Policy*, Sydney.